

ヴェルヌ 『神秘の島』 第2部の メモ

takaidos

ジュール・ヴェルヌ(1828-1905)。
1874年(ヴェルヌ46歳)発行。

大友徳明・訳。
2004年発行。偕成社。

島の生活が軌道に乗って来た5人は島の中を探検する。
帰って来て住処のグラニット・ハウスでオランウータンのジュップ
を仲間に加え召使いにする。
島の生活をグレードアップする便利な道具が箱詰めされて流れ着く

。その中にあった地図で240km離れたところにタボル島があることを知り船を作って偵察に行く。

そこには野人化した謎の男エアトンがいた。
エアトンは『グラント船長の子供たち』でブリタニア号やダンカン号を乗っ取ろうとして、取引きでタボル島に残ることを選んだ悪党だった。
しかしエアトンは良心を取り戻し一行の仲間としてあたたかく迎えられる。

リンカーン島に来て2年半が経ったある日、海上に船の姿が見える。

。これまでに読んだ漂流物。

1. ジュール・ヴェルヌ『十五少年漂流記』
2. ウィリアム・ゴールディング『蠅の王』
3. 須川邦彦『無人島に生きる十六人』
4. 吉村昭『漂流』
5. 山田風太郎『裸の島』(アナタハン事件が元ネタ)
6. 井伏鱒二『ジョン万次郎漂流記』
7. ジュール・ヴェルヌ『神秘の島』
8. ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』
- 9.

文明のレベルを上げてしまう、という点で本書は異質。

★★★★★

<目次>

<登場人物>

サイラス・スミス:技師。北軍の鉄道管理指揮者。45歳。マサチューセッツ州出身。手先が器用。Cyrus Smith(英訳でCyrus Hardingのものもある)。

ジェデオン・スピレット:新聞記者。ニューヨーク・ヘラルド紙の戦場特派員。40歳。片手にピストル、片手にノート。Gideon Spillett.

ナブコドノソール:ナブ。黒人でサイラスの元召使い。
。Neb.Nebuchadnezzar。

ペンクロフ:世界中を渡り歩いて来た水夫。35~40歳。ハーバードの父親・船長に雇われていた。Pencroft.

ハーバート・ブラウン:15歳。船長の息子。孤児。Herbert Brown.博物学。

トップ:サイラスの忠犬。

ジュップ:体長2mの若いオランウータン。召使いとなる。

エアトン:グレナヴァン卿のダンカン号を奪い損ね、12年間タボル島にひとりで暮らしていたイギリス人。改心してサイラスたち開拓者の仲間を迎えられる。

<あらすじ>

10月24日。

食事の肉から鉛の弾丸が出て来る。

島にマレーの海賊など他に誰がいるかもしれないので警戒することにする。

10月25日。

また島を偵察するためにペンクロフはボートを作り始める。

植物:ダグラスモミ。

動物:アグーティ、ミズブタ、カンガルー、ペッカリー、アナウサギ。

10月26日。

ハーバートは高さ60mのカウリマツのてっぺんに登り人の姿が見えないか確認する。

10月28日。

ハーバートとナブは海岸で見つけたウミガメをひっくり返してグラニットハウスに知らせに行くが帰って来てみるとカメは居なくなっていた。

10月29日。

木の皮の小舟、完成。

材質はクレジンバ(ヤシ科)、長さ4m。
5人で小舟に乗り、漂流物岬で箱と樽二つが浮いているのを見つける。
。グラニットハウスに持って来て中身を確認めると、様々な役に立つ道具、服、書籍などが入っていた。
漂流者が西海岸に着いていたら助ける必要があると考える。

10月30日。
上げ潮を利用して恵みの川を遡って西部地域の探検に出かける。
漂流物にあった火打ち石銃、雷管銃、カービン銃も持って行く。

植物:ハルニレ、エノキがめ、アケビ、柿の木、アカザ、アブラナ科、クレソン、わさびダイコン、カブ、カラシナ、ユーカリ。
野鳥:シギダチョウ、キリハシ、ヒインコ。
動物:サル。

サイラス「ユーカリの木(フトモモ科)は熱の木とも言われマラリア熱のウイルスを弱めてくれる」

水深が浅くなって来たので野営。

10月31日。
出発。
植物を切りながら進む。
小川と突き当たる。
西海岸に出ると川は12mの高さから海に落ちていたので、『滝の川』と名付けた。

植物:ヒマラヤスギ、ダグラスモミ、モクマオウ、ゴム、ユーカリ、リュウケツジュ、ハイビスカス、オーストラリアスギ。
動物:サル、イノシシ、アグーティ、カンガルー、ウサギ、クーラ。ザリガニ。

滝の川からヘビ半島の端・トカゲ岬へ。
野鳥:キリハシ、キヌバネドリ、ヒオドシジュケイ、オオライチョウ、ヒインコ、オウム、シロインコ、キジ、ハト。
動物:ジャガー。
植物:竹。

ハーバートと水夫はジャガーの洞穴を見つける。
ジェデオンがカービン銃でジャガーを殺し、その晩はその洞穴に泊まることにする。
サイラスは焚き火に竹を混ぜて爆ぜさせて近くの猛獣を怯えさせる

。ナブはジャガーの毛皮を剥ぐ。

11月01日。

トカゲ岬→ヘビ半島南岸→切り通し・入り江(気球港)→つめ岬→漂流物岬→グラニット・ハウスまで65kmを踏破。

乗って来た気球の残骸を発見する。

残骸を外して洞穴に隠し、あとで恵の川に橋をかけ荷車を使って気球を運びに来ることにする。

恵の川を渡る筏をペンクロフが作ろうとすると、上流に留めておいた小舟が流れて来たので捕まえて、それでチムニーのそばの砂浜まで行く。

やっとグラニット・ハウスに到着するとハシゴが無くなっていた！

11月02日。

朝、明るくなってグラニットハウスに行ってみると、オランウータンたちに占領されていた。

待ちかまえていても拉致があかないので、排水口から入ろうとすると、オランウータンたちが何かに怯えて騒ぎ出し一匹を残して射殺出来た。

残る1匹はハシゴを下ろしてくれた。

捕まえてジュップと名付けて召使いにすることにした。

家畜場の計画を立てる。

家畜の囲い場→牧草地である赤い小川の水源。

家禽飼育場→排水口付近の湖の岸辺。

家禽としては捕まえて来たシギダチョウにつがいが飼育鳥第一号となった。

11月03日。

恵みの川(川幅25m)の橋の建設開始。

橋の場所と気球港は直線距離で6kmも無かった。

11月20日。

橋が完成。

第2の麦畑作り。麦畑を柵で囲って可動式かかしを立てる。

11月21日。

ニトログリセリンでグリセリン川を作る。

12月前半。

見晴らし大地の周辺に川や堀を作って囲い場を作り、家禽飼育場を作る。

家禽飼育場ではシギダチョウ、ホウカンチョウ、ハト。

ペリカン、カワセミ、バンが家禽飼育場の湖岸に集まる。

12月23日、囲い場にオナガー(アジアノロバ)のつがいが迷い込んで来たのでそのまま家畜にする。
オナガーに荷車を引かせて重たい気球の残骸を運んで来る。

1866年。
1月第1週。
気球のガス袋を使って下着作りをする。
漂流物の中にあつた針が役に立つ。

サイラス、綿花薬を作る。
植物:ニワトコ(スイカズラ科~セルロースを採れる)。ホウレンソウ、クレソン、ワサビダイコン、カブ。
海の産物:カキ、サケ。
動物:ウミガメ。

ペンクロフ、釣り針のついたはえ縄を仕掛けてサカナを獲る。

1月終わり。
反芻動物(ウシ、シカ、ヤギなど)を飼うための新しい囲い場と小屋を作り始める。

2月07日。
30頭のムフロンと10頭のヤギを捕獲して囲い場に入れる。

植物:キクニガナ科(油)、スイバ(壊血病)、塊茎、ジャガイモ。
野菜畑:レタス、卵形ジャガイモ、スイバ、カブ、ワサビダイコン、アブラナ科。

サイラス、ビール(スプリング・ビア)を作る。
夏の終わり。
家禽飼育場:フサエリノガン、ハシビロガモ。ニワトリ。

3月第1週。
雷雨、卵ほどの雹。
閃電岩(フルグライト/落雷で砂や赤土の一部が溶けてガラス状に固まった岩石)。
旋盤を一台備え付け、ボタンを作る。

3月17日、グラニット・ハウス内に水力機関のエレベーターが完成。

3月28日。
ガラスと窓ガラスを作る。

ソテツを発見する。

植物:ソテツ

→小麦粉の代わりにパン作りに使える。

粘液を圧搾機で搾って粉末を採取し、お菓子やプディングにした。

4月01日。復活祭の日曜日。

六分儀でリンカーン島の緯度と経度を測り直して地図を見ると、240km離れたところにタボル島があるのが分かった。

ペンクロフ、タボル島を調査するための帆船作りを始める。

4月15日。

2度目の小麦の収穫。

4月後半。

北西の森でクーラを仕留める→硫酸処理してなめし皮に。

動物:クーラ(ナマケモノに似る)

4月30日。

ジェデオン、タバコを発見。ペンクロフにはプレゼントの日まで内緒にする。

植物:タバコ。

5月01日。

クジラが遊泳。

5月03日。

クジラの死骸が漂流物岬の砂浜に漂着。

アメリカの捕鯨船マリア・ステラ号のヴィンヤードと書かれた鋸が刺さっていた。

クジラを解体して、クジラ乳、脂肉、ひげを採取。

5月31日。

ペンクロフにパイプ・タバコをプレゼント。

6月。冬。

ムフロンの毛で服を作る。

6月20日。

本格的な冬になり船の建造を一時中断。

ペンクロフ、サイラスに、ハーバートと一緒にタボル島への調査航海の許可を求めるが、話は平行線になる。

6月終わり頃。

初雪。
落とし穴とサイラスのクジラのひげの罠を設置。
動物:キツネ、イノシシ、ジャガー。

6月30日。
捕獲したアホウドリの首にジェデオンがニューヨーク・ヘラルド紙宛ての記事を入れた袋をかけて放つ。

7月。
2番目の暖炉。
アメリカの共和制の話。
石炭が尽きたあとの話。
サイラス
「水を電気分解して、酸素と水素を使ってタービンを動かすだろう。」

トップとジュップ、グラニット・ハウスの井戸(海面に通じる)に向かって吠える。

気温はマイナス13.33℃～マイナス22℃。
嵐。

8月03日。
暴風がおさまったので、ツクシガモの沼へ狩猟に行く。
野鳥:マガモ、タシギ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ。

サイラスは残って井戸に降りて行き調査するが何も発見できず。
だが、なにかある。

8月翌週。
船用のロープや滑車作り。
星条旗づくり。

8月11日夜半。
100頭のマゼランオオカミが小橋を渡って見晴台地に上がって来たので追い払う。
ジュップ重傷を負う。

8月25日。
ジュップ回復して来てタバコを吸う。

～9月15日。
船造り作業のピッチが上がる。
外板が終わり、蒸気を使って肋材を柔らかくして内側を作って行く。
防水のために内張板を二重にする。

甲板・内張完了。
隙間にアマモを詰め込む。
タール(松から採れる)を見て滾らせて継ぎ目に流し込む。
バラスト6トン(花崗岩)を積み込み、その上に船室に床を張る。
ベンチは物入れの箱にもなる。
2つの船室の間にマストの支柱を埋め込む。
マストはモミの木。

～10月第1週。

金具。

帆桁、トゲルンマスト(上檣)、帆のすそを張る円材、代用マスト用の円材、オールを取り付けて船完成。

植物:マツバギク。

10月10日。

船、進水。

ペンクロフ、船長となる。

船名『ボナドヴェンチャー』号(楽しい冒険)。

島の沿岸を航海中、海上でビンを拾う。

『遭難者:男1名、西経153度、南緯37.11度』

10月11日。

ペンクロフ、ハーバート、ジェデオン、一週間分の食糧を積んでボナドヴェンチャー号でタボル島へ向けて出航。

10月14日、タボル島に到着。

ヤギ、ブタの群れ、ヨーロッパ産の植物、小屋を発見。

小屋で住人を待つが現れず。

10月15日、ブタのつがいと植物をいくつか積んで帰ろうとすると、ハーバートが野人に襲われたので捕まえて、船に乗せて帰路につく。

10月19日夜、リンカーン島の火が見える。

サイラスが目印として火を点けていてくれたのだった。。。と思ったが。。。。

見知らぬ男は徐々に失われた心を回復して行った。

11月03日。

見知らぬ男はついに口をきく。

ハーバートが「今は1866年11月」と教えると、彼は「12年か！」と叫ぶ。

11月10日。

見知らぬ男が再び口を開き、自分がなぜここに居るのかと一同に問いかける。

エアトン、どこかへ行ってしまふ。

11月15日。

3度目の小麦の収穫。

パンづくりが出来る量になる。

12月01日、小麦を挽くために風車小屋が完成する。

サイラス「1分間の風車の羽根の回転数が風速の2倍くらいのときに風車の装置がよく働く。」

12月03日。

湖岸で釣りをしていたハーバートをジャガーが襲うが、助けたのは逃亡していた見知らぬ男だった。

12月10日。

見知らぬ男はサイラスに家畜飼育場に住ませてくれと頼む。

12月20日。

一同は家畜飼育場の囲い場に快適な小屋を作る。

見知らぬ男、ついに自分の過去の罪(『グラント船長の子供たち』)と名前を名乗る。

見知らぬはかつて、グラント船長のブリタニア号とグレナヴァン卿のダンカン号を奪おうとして、その罪のためにタボル島に自身で残ったという話をする。

(日付は『グラント船長の子供たち』のそれと違い

、1855年3月18日だった。作品間の矛盾。出版社エッツェルは後ほどこの理由が判明するだろうとしている。)

しかしエアトンは自分で手紙を書いてビンに入れて海に流すことはしていない、という。

一同はエアトンにいっしょに住もうというがエアトンはもう少し時間をくれという。

12月21日。

エアトンは囲い場に去った。

1867年。

1月10日。

サイラス、グラニット・ハウスと囲い場8kmを電信機で結ぶ計画を発表。

皮なめし機で鉄棒を引っ張って針金の電線を作り、電池も作る。

2月06日。

電信柱を立てる作業を開始。

2月12日、電信機設備が完了。

毎朝毎晩、囲い場と電報のやりとりが出来るようになる。
一方で一週間に一度は囲い場に行きエアトンと会うようにする。

写真を写して回る。

3月21日。

海鳥の群れが来て去る。

4月16日。

エアトンとジュップがグラニット・ハウスで留守番をして、一同は船で島の西側と北側を探検する。

玄武岩の岩礁。

サメ湾は静かでない港になりそうだったが、岸壁ばかりで船を着けて降りる場所が無かった。

サイラス、タボル島から船が帰って来た夜、自分もナブも火を燃やしていなかったという。

4月25日。

グラニット・ハウスの大地でサイラスはこれまでの不思議な現象の全てを整理し、島に自分たち以外の人間がいることを示唆する。

エアトン、ムフロンの服をもらう。

悪天候の冬。

10月、春。

エノキ、バンクシア、ヒマラヤスギの新芽。

10月17日。

ハーバート、サイラス、合衆国湾海上に写った船を発見。

<メモ>

☒☒ことば

マタイの福音書・第7章第8節

「だれでも、求める者は与えられ、たずねる者は見つけだす。」

☒☒ビュホン(1707~88年・フランスの博物学者)は、オランウータンを召使いとして飼っていた。

☒☒豆知識

①綿花薬

- 1) ニワトコからセルロース(線維素)を採取。
- 2) 濃縮硫酸+硝石→発煙硝酸。
- 3) セルロースを発煙硝酸に15分ほど浸して、大量の水で洗い乾燥させて完成。

②ガラスと半透明の窓ガラス

ガラスの成分=砂+白亜+ソーダ(炭酸塩か硫酸塩)。

石灰→白亜、海藻→ソーダ、黄鉄鉱→硫酸。

砂、石炭、鉄の吹きざお。

- 1) 砂100、白亜35、硫酸ナトリウム40、粉末状の石炭2~3を耐火性の窯に入れる。
- 2) 吹きざおで掬って吹いて膨らませる。
- 3) 冷やした刃物で切り分けて、再び熱して鉄板の上でローラーで平らにする。

③ソテツ

圧搾機で粉末状にして→お菓子、プディング。

(日本政府はソテツの粉末の輸出を禁止していた。)

④帆船

予定工期:6ヶ月。

キール(竜骨)11m、ビーム(船梁)3m、一本マスト。

スパンカー(後斜桁帆)、フォア・ステーブル(前檣帆)、フォースル(前檣縦帆)、トップスル(檣頭帆)、ジブ(三角帆)。

主要木材:モミの木

⑤クジラのひげ

狩猟道具になる。

冬にひげを丸めて水をかけて凍らせて獲物が食べるとひげが伸張して胃を突き破る。

⑥服作り

1) ムフロン羊毛に染み込んでいるスイント(脂肪)を除くために70℃のお湯に24時間浸しておく。

2) ソーダ液につけて完全に洗い、十分に乾かす。

3) 圧縮機(滝の力で上下動カムを動かす)で羊毛を圧縮しフェルト状のシートにする。

4) 服や毛布に縫い上げる。

⑦風車小屋

場所は湖岸近くの家禽飼育場の右手。

製粉機(固定うすと回転うす)、円錐形の屋根、運搬容器、じょうご形の装置、ふるい分け器など。

⑧ 電信機

1) 針金の電線。

2) 電池

ガラスの樽に硝酸液を入れる。

栓をしてガラスの細いチューブを挿し込み、チューブの下に、布に包まれた粘土の球を取り付ける。

チューブにはカリの溶液を注入する。

亜鉛板を一枚は硝酸液に、もう一枚はチューブ内のカリ溶液に入れる。

チューブが陽極、樽は陰極。

3) 受信機と送信機

電線を電磁石(軟鉄:炭素含有量が少ない柔らかい鉄)に巻きつける。

陽極から出た電流→電磁石の電線→地面を通過して陰極へ。

電磁石の前に軟鉄板をおき、電流が流れる間だけ電磁石とくっつく。

軟鉄板の装置に針を取り付け、アルファベットの文字盤を配置。

4) 電柱